

学校法人 大阪学院 令和7年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人 大阪学院

② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

TEL: 06-6871-3307 Fax: 06-6871-3364 HP: <https://tamagawa-k.ed.jp>

(2) 設置する学校

玉川学園幼稚園

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

① 認可定員 850名（26クラス）

定員内訳 3歳児280名（8クラス、ただし満3歳児を含む）

4歳児285名（9クラス）、5歳児285名（9クラス）

② 利用定員 810名（25クラス）

定員内訳 3歳児270名（9クラス、ただし満3歳児を含む）

4歳児270名（8クラス）、5歳児270名（8クラス）

③ 教育目標

幼稚園教育とは、幼児を心身ともに総合的に成長させ、自立した人間としての基礎を形成することを目的とする、という認識にたち以下の目標を設定する。

1. 子どもの心を育てる

2. よい仲間社会を育てる

(3) 園児数の状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5歳児	6cl	156	157	157	157	154	155	155	154	154	154	154	154
4歳児	7cl	202	203	203	203	202	202	203	204	204	203	203	203
3歳児	6cl	159	159	160	160	156	158	158	158	159	158	158	158
満3歳児	3cl	0	0	19	23	23	48	51	54	54	54	54	54
合 計	22cl	517	519	539	543	535	563	567	571	571	569	569	569

(4) 教職員の概要

教員数							職員数			
本務者					兼務者		本務者		兼務者	
園長	副園長	主幹	教諭	計	教諭	計	職員	計	職員	計
1	1	1	3 8	4 1	1 2	1 2	5	5	0	0

2. 事業の概要

(1) 設置園の教育活動の概要

当法人は、教育基本法、学校教育法および子ども子育て支援法に則り、学校教育と子育て支援を行うことを目的として玉川学園幼稚園を設置し、その運営を行うものである。令和7年度においても、在籍する幼児が心身ともに健全に育つようにその教育方針である「自然を題材にした表現の保育」の充実に努めるとともに教育環境の整備を図った。加えて、幼稚園教育に付随する子育て支援のための各種事業も継続および拡充を行った。

令和7年度の保育内容や行事運営は、ほぼ予定通りに実施することができた。本園では、子どもひとりひとりの自立を促し、同時に良い集団社会を築くことを目標として保育を行っているが、年度末の無記名保護者アンケート（回収率87%）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（73%）」、「良かった（26%）」、②本園の教育内容については「満足（72%）」、「概ね満足（24%）」との回答いただいております。保護者の満足度は高いと言える。今年度は、暑さ対策から2学期以降の行事日程を一部見直したが、日程が窮屈になるなどの課題も残り、引き続き行事内容や行事日程の検討が必要である。吹田市では今年度から5歳児健診に係る「こども発達 Web アンケート」が実施されたので本園もこれに参加し協力した。

令和7年度の期首の園児数は、前年度から34名の減少となったが、期中に満3歳児が入園することでそれを一定程度補っている。ただし、これは年少児で入園する予定の園児を満3歳で先取りする形になっているため、総数では減少傾向が続いている。吹田市では、特に1歳児の保育需要が旺盛でそれを受け入れるために保育所の増設が続いている。このため、満3歳児や年少組で幼稚園に入園する園児数がそもそも少なくなっている。本園では、次年度から吹田市で実施される「こども誰でも通園制度」に参画する予定であるが、低年齢・長時間保育の流れに沿って、今後は「こども誰でも通園制度」をはじめ諸制度の活用を検討する。

職員研修は、園内研究会を毎月1回の頻度で実施するほか、保育と表現の会が主催するセミナーや公開保育に参加して職員の資質向上に努めた。また、厚労省が制定した保育士等キャリアアップ研修を全員が種々の分野について受講したほか、園児の事故を未然に防ぐためのAED研修を消防署の講師を招いて実施した。

子育て支援事業においては、預かり保育を年間通して午前8時～午後7時の範囲で実施した。預かり保育の今年度のべ利用者数は前年度に比べて若干減少しているが、総園児数が減少しているにも関わらず預かり保育の希望者は根強い。現在は満3歳児の月ぎめ預かり保育は実施していないが、今後はこれも検討材料になる。

未就園児（2歳児）を対象とした子育て支援事業として「プレスクールつぼみ（幼児教室）」を火曜日から金曜日の週1回または週2回コースで実施し、就園前の幼児の集団遊びの指導を行った。他に未就園児対象の事業として「園庭開放」を5月と6月に1回ずつ、「玉川サマーフェスティバル」を7月に実施、「親子ふれあい保育室」を夏休み中に計6回実施し、それぞれ本園職員が親子遊び等を通して子育て家庭の交流の場を提供した。また、月1回の頻度で親子体操教室も開講し、本園の体操コーチが親子体操を指導した。子育て支援事業のキンダーカウンセリング事業は概ね月1回で実施して子育てをする保護者の相談に臨床心理士が応じた。

(2) 実施した主な行事

実施日	内 容	学年
4月3日	入園式	新入園児
4月9日	進級児始業式	年長・年中
4月11日～15日	個別面談	年長・年中
4月17日～21日	個別面談	年少
4月22日	保育参観日	年少
4月23日	保育参観日	年中
4月24日	保育参観日	年長
5月12日	春の遠足（神戸動物王国）	年長
5月16日	春の遠足（千里南公園）	年少
5月17日	園庭開放	未就園児
5月19日	春の遠足（伊丹スカイパーク）	年中
6月2日	満3歳児6月組入園	満3歳
6月8日	日曜参観日	全学年
6月11日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
6月14日	園庭開放	未就園児
6月16日	プール開き	全学年
6月17日	保育参観日	満3歳
7月5日	玉川サマーフェスティバル	未就園児
7月7日	七夕あそび会	全学年
7月7日～11日	プール参観日	全学年
7月15日～18日	個別面談	全学年
7月19日	同園会	卒園児
8月25日～29日	夏期保育	全学年
9月1日	満3歳児9月組入園	満3歳
10月21日	運動会	年少～年長
10月24日	おいもほり	年中
10月27日	秋の遠足（王子動物園）	年中
10月28日	秋の遠足（万博公園）	年少
10月29日	園外保育	満3歳
10月30日	おいもほり	年長
11月4日	秋の遠足（京都鉄道博物館）	年長
11月5日	七五三園外保育（伊射奈岐神社）	年長
11月6日	おいもほり	年少
11月8日	新入園児招待日	出願園児
11月17・18日	親子運動会	満3歳
12月6日	製作展	年長
12月9日～12日	うたとリズムの発表会	年中・年少

12月16日	クリスマス会	全学年
12月16日～19日	個別面談	全学年
1月14・16日	保育参観日	年中
1月15・22日	保育参観日	年少
1月21・23日	保育参観日	年長
2月3日	節分あそび	全学年
2月5日	保育参観日	満3歳
2月17・18・20日	生活発表会	年中
2月19日・25日	生活発表会	年少
2月27日・3月3日	生活発表会	年長
3月3日	ひなまつり会	全学年
3月5日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
3月6・9日	個別面談	希望者
3月10日	お別れ会	全学年
3月17日	卒園式	年長
3月19日	修了式	満3歳～年中
毎月最終金曜日(原則)	誕生会	全組

3. 財務の概要

本園は「子ども子育て支援新制度」のもと、国が定める公定価格に基づく施設型給付金を吹田市から受けて運営をしている。本園では、毎月の保育料は0円としており、保護者からいわゆる特定保育料は徴収していない。

今年度の事業活動収支において、経常収支差額は収入超過であり前年度に比べても増収になっている。支出では諸物価高騰に伴い教職員への処遇改善を行った結果、人件費支出が前年度より大きく増えた。また、エアコン等の入れ替えや諸設備の修繕費用が昨年度の約2倍になった。一方で、利用者数減少のため通園バスを1台売却したことにより、1台分の維持費と運転士委託費を軽減することができた。全体として総園児数が減少しているにも関わらず増収になっているのは、保育に係る公定価格が上昇し、施設型給付金等の補助金収入が前年度より増加したことによる。ただし、人件費の負担は今後も増加することが予想されるため、「未就園児クラス」や「満3歳児クラス」、「預かり保育」など現下の低年齢・長時間保育のニーズに沿った拡充が求められる。また、「こども誰でも通園制度」など新たな制度の導入も次年度から実施する。

今年度の資本的支出としては6保育室・1事務室のエアコンを入れ替えたほか、電子ピアノを1台と輪転機1台を購入した。暑さ対策のため、次年度も引き続き保育室等のエアコンの入れ替えを予定している。施設維持のために修繕として、運動場の整備工事や通路の人工芝貼り替え、窓サッシの補修等を行った。また、全保育室のワックス塗装や園庭樹木の剪定、エレベーターや消防機器等の定期点検も固定的な修繕費として支出される。本園は、築年数の古い園舎があるため、耐震補強はしているものの将来の建替えも視野に入れて資金を積み立てておく必要がある。

資金収支においては、施設型給付費収入が前年度より増加しており、人件費や修繕費支出の増加はあるものの翌年度繰越支払資金は増加した。